

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日平成24年6月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871600185		
法人名	有限会社 かさま夢くらぶ		
事業所名	ケアホーム 夢くらぶ	ユニット名	
所在地	〒309-1625 茨城県笠間市来栖2846-5		
自己評価作成日	平成23年11月23日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0871600185&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年1月16日	評価確定日	平成24年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>施設内には大きな農園があり、お野菜はいつでも取り立ての季節の野菜が食卓に並びます。ブルーベリーが沢山収穫できるので、ジャム・ジュースなど利用者様にも好評です。月に何度か外食・外出等取入れ、利用者様共々楽しみを取り入れています。今年の収穫祭は11月に行い、ボランティア様による民舞・カラオケ・詩吟等拝見、拝聴し、利用者共々、民生委員の皆様、区長様、駐在所様、近所の皆様も楽しむことが出来ました。昼食は、山菜おこわ、収穫した新米のおにぎり、収穫した柿、けんちん汁、さつまいも、白菜の漬物等味が良いと好評をいただきました。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と職員は利用者に対していつでも心が温かくなるような笑顔で接し、利用者一人ひとりの人格を尊重しながらサービスの質の向上を目指している。</p> <p>事業所には広さ50畳ほどの舞台付きの大広間があり、利用者一人ひとりが思い思いのことをしながら自由に寛いでいる。</p> <p>事業所の畑では野菜やブルーベリーなどを栽培し、利用者と職員が季節を感じながら作業を行う場となっており、収穫も楽しみの一つになっている。</p> <p>自治会行事への参加や事業所行事への招待を通して地域と日常的に交流し、協力し合う関係を築いているほか、利用者や家族等との絆を大切にしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご家族と地域の絆を大切にします」を理念の一つに挙げ、実践に努めている。理念を目に付くところに掲示し、意識付けをしている。	「ご家族と地域との絆を大切にします」を理念の一つに掲げ、玄関や居間に掲示して意識付けを図るとともに、職員会議で唱和して共有し、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の祭りや小学校の運動会などの行事に参加するほか、事業所の行事に地域の人々を招待し、積極的に交流をしている。	2つの自治会に加入し、地域の祭りや小学校の運動会、芋煮会に参加しているほか、代表者が消防団の集まりに参加して巡回の手伝いをしている。 地域の人々を招待して年1回行なわれる収穫祭では、家族等や地域住民が料理持参で参加している。 オーケストラの演奏や日本舞踊、紙芝居などのボランティア、大学生の体験学習を受け入れている。 地域の人々が草取りに来てくれたり地元の消防団や交通安全協会が巡回で立ち寄るなど、地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や、「夢くらぶ新聞」の中で、地域の方々に向けて発信し、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、市職員や民生委員等で話し合う機会を持ち、事業所の状況報告を行う他、会議で出た意見や助言を、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族等や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者や家族等の状況、身体拘束の方法や期間、感染症対策、行事案内などが議題となっており、議題に応じて駐在所職員や消防署員、消防団長などの参加を得て話し合っている。 会議で出た意見や助言は職員で話し合っ運営に活かしているが、外部評価結果は話し合うまでには至っていない。	運営推進会議に外部評価結果を議題として話し合い、サービスの質の向上につなげることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に交流を図り、密に連絡を取り合い協力し合っている。	市担当者とは電話や訪問により密接に連絡を取り合い日常的に情報交換をしている。 事業所の空き情報や利用者の状況、生活保護関連の相談をしているほか、市が主催する研修会の情報を得たり、市が主催する一般市民のグループホーム見学会を受け入れるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的な勉強会で理解を深め、拘束しないケアに努めている。玄関にセンサー式のチャイムを設置すると共に職員の見守りを徹底し、日中は施錠せず、利用者の自由な暮らしを支援している。	管理者や職員は内部研修を受講して身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践しているが、身体拘束排除に向けた外部研修を受講するまでには至っていない。 玄関は施錠せずセンサー式チャイムを設置しており、職員は利用者の外出を察知した場合は同行しているが、入浴介助等で職員が目が行き届かない時間帯に限り、利用者の安全のために玄関を施錠している。 契約書に身体拘束排除のための事業者の方針を明記するまでには至っていない。 身体拘束排除に向けたマニュアルを作成したり、やむを得ず身体拘束をする場合の書類を整備するまでには至っていない。	身体拘束排除のための事業所の方針を契約書に明記するとともに、やむを得ず身体拘束を行なう場合に備えて、同意書などの書類を整備することを期待する。 職員は身体拘束排除に向けた外部研修を受講するとともに伝達研修を行い、全職員で共通理解を図ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開くと共に、虐待が見過ごされることがないように、全職員で虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中で資料に基き、抑制のない尊厳のあるケア・利用者の生活歴を理解し相手をよく知ることによって支援していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は2人で対応、契約の説明をして、理解と納得された上での契約を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は利用者と家族、家族と職員の繋がりを大切に考え、毎月の支払いを家族に持参してもらっている。管理者・職員は利用者の日常生活を報告したり、和やかな中家族の意見や要望を聞くよう努め、支援や運営に反映させている。	管理者は利用者や家族等、職員のつながりを大切に考え、毎月の利用料の支払いを家族等に持参してもらっており、意見や要望を聴く機会になっている。 玄関に意見箱を設置しているほか、年1回家族アンケートを実施している。 職員は利用者からは日常のふれ合いの中で要望を聴くように努めており、利用者や家族等から出た意見等を全職員で話し合って運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングで必ず職員の意見・提案を聞く機会を設けているほか、意見を出し易い関係作りに努め、出た意見は全職員で協議し、運営に反映させている。	管理者は2ヶ月に1回開催する全体ミーティングや日常の業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 利用者への夜間の対応方法など、出た意見等は全職員で話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、施設運営に努力しながら、職員の希望に沿うよう、職場環境・整備にも気配りしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の向学心に協力的で、外部研修等受ける機会を、支援してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は地域の施設との交流に前向きであり、地域でも交流の機会を設けてくれている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用始めは、不安と思われるので職員が話し相手をしたり、生活リズムに沿い介助に努めている。また、会話の好きな利用者との交流に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と共に職員も同行して、要望等伺い、きめ細かい説明と開始始めの過ごし方等報告している。家族の要望にも近づけるよう、職員との話し合いも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に面会した職員が対応する様にしてしている。要望に沿いながら無理のない様支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りの中、出来ることは共にしたり、利用者同士でもして頂ける様支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療受診日、家族の協力と職員も行動を共にして、良い方向になる様努めている。行事案内等で家族との絆を大切に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中で昔の懐かしい事を話される時など、ドライブを試みたりして、其々の思い出に努めている。	職員は利用者が行きつけの美容院を継続して利用ができるよう家族等の協力を得たり、家族等や親戚との電話のやり取りを支援している。 法事や墓参りのほか冠婚葬祭に参加できるよう支援するなど、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう積極的に支援している。 家族等や友人などの面会はいつでも受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファに掛ける時、時々相手が変わるように気配りしている。会話が弾んだり、笑顔が見られることは、職員も嬉しい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進委員会や、「夢くらぶ新聞」の中で、地域の方々に向けて発信し、理解を深めている。行事の案内等を通してかかわりに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	管理者・職員・利用者も施設での生活歴が長いので、大抵の事は心得ているが、本人の意向に沿うよう努めている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴や人柄を把握するとともに、日々の係わりを通して行動や表情を観察しながら思いや意向の把握に努めている。 職員は利用者の希望にそった支援に努めており、カラオケや外出など利用者がやりたい時にやりたいことができるように支援をしている。 利用者の意向にそって洗濯物たたみや自家菜園での収穫などの役割を担って暮らせるよう支援をしている。 思いや希望の把握が困難な利用者の場合は、家族等から情報を得たり表情や反応により把握している。 把握した利用者の思いや意向を記録に残すまでには至っていない。	把握した利用者の希望や意向を個人記録に残し、全職員で共有することを期待する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で昔の懐かしい事を話される時など、ドライブを試みたりして、其々の思い出に努めている。家族との話にも参加して生活歴等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・連絡帳等で管理者・職員間で毎日の状態を把握するように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを、職員それぞれの意見や、対応（本人、家族）等で、介護計画に生かす様話し合っている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れるとともに、毎月モニタリングを行い3ヶ月に1回見直しているほか、職員は毎朝のミーティング時や昼休みを利用して利用者の様子を話し合っている。 全職員が係わって介護計画を見直しており、職員が全てを介助するのではなく、利用者の残存機能を活かしながら自立を目指した介護計画を作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度介護計画を見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・アセスメントシート・申し送り等で毎日の細かいケアについて、話し合いをしながら実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の経済的相談、健康状態、ニーズに対応できる様、管理者との話し合いを持っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、信頼できる総合病院がある、行政も協力的で、相談できる関係である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時の対応等は、定期的なものは、勤務表に反映させている、又は前日、当日に打ち合わせをしたり、利用者の状態に合わせて柔軟な支援に取り組んでいる。	かかりつけ医は利用者や家族等が希望する医療機関とし、通院や往診を支援している。 かかりつけ医への受診は家族等の協力を得ているが、家族等の協力が困難な場合は職員が付き添い受診支援をしている。 協力医療機関の医師による定期的な訪問診療により、適切な医療が受けられるように支援をしている。 受診結果はその都度電話で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態は、管理者、職員が看護師に伝え見てもらい、往診医療スタッフに繋げたり、早期発見・早期治療に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院医療機関と定期受診等で良い関係を心掛けている。又突発事故等には、地域の信頼できる総合病院があり、施設で出来ることは、協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末については、契約時に同意書を頂いているが、その都度必要時は、家族と相談している。家族も協力的である。	事業所は終末期介護や看取りは行なわない方針であり、明文化したうえで契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ている。事業所での看取りを希望するケースもあるが、繰り返しの話し合いにより看取りは行なわない方針であることへの承諾を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の研修に参加して、応急手当や初期対応の訓練、急変、事故発生等マニュアルで研修。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で、火災非難訓練、地震、水害時の方法を訓練したり、消防署の施設点検の協力がある。	消防署立会いの避難訓練を年2回実施しているが、様々な災害や発生時間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。 訓練で明らかになった反省点や課題を整理して記録に残すまでには至っていない。 日頃から地域との交流は積極的に行なわれているが、避難訓練時に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備え食糧や飲料水、寝具等が備蓄されており、スプリンクラーも設置されている。	避難訓練で明らかになった反省点や課題を記録に残し、次回の訓練に活かすことを期待する。 地震や夜間を想定した避難訓練を行なうことを期待する。 災害時に近隣住民の協力が得られるよう、運営推進会議などで避難訓練への参加を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、職員共、長い付き合いの間柄、人格尊重、言葉掛けに気配りしている。自室での行動は見守り、確認して対応している。	職員は利用者の人格を尊重し敬意を持って接している。 職員はトイレ誘導時には利用者の耳元でさりげなく声をかけるなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。 利用目的を明記した個人情報利用同意書を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 利用者の個人情報に関する書類は鍵のかかるロッカーに保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は自由に希望を表している、小規模なので自己決定の支援を受け易い。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重して、意見交換もあるが、自由を支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったおしゃれが出来る様、声掛けや褒める事、外出時の活用で支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握して、選べるメニューで支援するも、いつの間にか、嫌いな物を食べている。食事・片付けを職員と共にしている。	利用者は職員と一緒に蒸しパンやたこ焼き、お好み焼き、餃子作りに参加しているほか、下膳や配膳、テーブル拭きなどを行っている。 職員は利用者と同じテーブルで同じ物を食べながら食事の支援をしている。 献立に利用者の希望を取り入れているほか、月1回全員で外出に出かけている。 手作り弁当を持参して花見やドライブに出かけたり、誕生会や収穫祭など行事にちなんだ食事やおやつを提供しており、利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護実施記録、申し送り等で、一人一人の状態を報告、検討して、個々に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の舌の汚れ、義歯、口腔ケアは、職員と共に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人に応じ、日中の排泄はトイレ利用、夜はPトイレ、トイレ誘導、リハビリパンツと尿取りパットと個々に対応、排泄の自立の支援をしている。	職員は利用者の生活リズムを把握しているほか、排泄チェック表を活用しタイミングを見計らってトイレ誘導をしたり、時間毎にトイレ誘導することで尿失禁の改善につなげており、昼間はおむつを使用している利用者はいない。 夜間も早めにトイレ誘導をすることで、なるべくおむつを使用しないで済むように支援をしている。 職員は利用者が排泄に失敗した場合に利用者の自尊心を傷つけないように心がけ、配慮のある対応をしている。 機能障害のある利用者に対しては、残存機能を活かしながらできるだけ自立して排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物（乳酸菌・牛乳・氷水等）の工夫・運動・便秘薬と個々に応じた予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴が皆さん大好き、1日置きの入浴であるが、職員間で話し合い、利用者の状態に合わせて、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回入浴ができるように支援し、時間帯などは利用者の希望にそって対応をしている。 長時間の入浴が困難な利用者の場合は、入浴前に足浴をしてから短時間で入浴ができるように支援をしている。 入浴剤を利用したり、柚子湯や菖蒲湯などで季節感を味わいながら入浴が楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息、昼寝、就寝時の安眠は一人一人違うので、その時の状況に応じて、職員は対応し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時Drに近況報告し、特に便秘薬・睡眠誘導薬・認知薬を相談、増やしたり、減る事で好結果が得られている。症状変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会・外出・外食・おやつ作り・レクリエーション・作品作り等支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中から、思い出の場所、実家、季節の花、景色等天気を見ながら、地域の行事参加等も地域の人々と協力しながら出掛けたのしみにを支援している。	天気が良い日は利用者の体調に合わせて事業所周辺の散歩を支援している。 利用者の希望にそった年間行事計画を立て、花見やあやめ祭り、菊祭りに出かけたがり、近隣の公園や神社に出かけ四季折々の花や景色を楽しめるように支援をしている。 事業所の玄関や前庭にテーブルや椅子を設置し、四季の移り変わりを感じながらお茶を飲んだり、外気浴が楽しめるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の計画を作成している。出来る人は、受診時自分で支払ったり、職員と共に計算しながら所持金支払いをしている。また個々にも希望に沿い、職員と共に買い物に出かける支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯持参者、本人からの申し出等対応している。手紙については、「親にくれるものだ、こちらから出すものではない」と言う意見を尊重している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、食堂、お出かけ時の車の座席等職員で話し合い、居心地良く過ごせるように工夫している。	事業所にはボランティアの催し物会場にもなる広さ50畳程の舞台付き大広間があり、日中は利用者全員が集まり、一人ひとりが自由に思い思いのことをしながら寛いでいる。 事業所の廊下や壁、食堂などには利用者と職員が協同で制作したカレンダーや笠間焼きの花器に活けられた季節の花が飾られており、家庭的で居心地のよい空間となっている。 自家菜園ではきゅうりや茄子、さつまい、ブルーベリーを栽培し、利用者と職員が協同で作業を行なう場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の陽だまりが好評、気の合う人たちと職員も参加しての会話、そうでない人との接点にも気配りしている。（同席を避ける）		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス等使い慣れたものを置いている。利用者によっては、自分なりに片づけしていて分からなくなるが、衣類、寝具も家族と共に確認しながら、気分よく過ごせるように努めている。	居心地よい共用空間があるため、居室は夜間のみ使用している利用者が多い。居室には家族等の写真や自作の絵、利用者の手作り品が飾られ、ラジオやダンス、時計などの使い慣れた物品や仏壇などの大切な物品が持ち込まれている。入り口には利用者自身の写真入り表札が掛けられ、家庭的で安心できる雰囲気の中で居心地よく暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一部段差があり骨折に繋がり見守り・付き添い更に気配りしている。付き添っての歩行練習、作品作り・作品箱設置が喜ばれている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホーム夢くらぶ

作成日 平成24年6月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除のための事業所の方針を契約書に明記すると共に、やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、同意書などの書類を整備すること。職員は身体拘束排除に向けた外部研修を受講すると共に伝達研修を行い、全職員で共通理解を図るよう研修会をしていく。	身体拘束をしないケアに向けて、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解して、見守り重視、必要性の無いケアをしていく。	契約書に別枠で身体拘束排除の為の書類作成。外部研修して、それを教材にして研修していた。もう一度研修し直していきたい。マニュアルは県の資料なので、当面これをマニュアルとしていく。その必要時の、家族の承諾書作成する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。